

宮崎県日南市 飢肥「食べあるき 町あるき事業」について

宮崎県日南市に飢肥はあり城や伝統的建造物群に観光客は大型観光バスで訪れていたが商店街を散策することがなく観光消費がないことから商店街の活性化がない状態であった

平成21年に「飢肥城下町食べあるき 町あるき」を開始したその仕組みは利用者があゆみちゃんマップ^①を運営する販売所で購入するとマップに5枚の引換券がついており加盟する店舗で飢肥名物のおび天や厚焼を食べることができる仕組みになっている

事業の加盟店舗利用者数も年々増加しており継続することは大変ですが商店街に活気がでてきて観光客も増えたのはうれしいことで空き店舗も無くなっていると説明でした

今後はいかに観光客に滞在する時間を長くする機会を措やすかが課題であると説明にあった飢肥を視察して食べあるき 町あるきをするための土台素材があることが重要であり更にはその地域に根差した食べ物にすることに痛感した次第でした。

西都古墳まつりについて

西都古墳まつりは宮崎県西都の西都原を中心に
妻市街地や都萬神社などで分散して開催される祭
りである。西都市中心部から西に数百mの位置に
広がる西都原古墳群にちなむ祭りの由来自体は
約600年前に西都原台地と市街地の間にある
三宅神社記録に残る天子系降臨祭、山陵祭まで
遡るとのことのようであると説明を受けた。

祭りの内要

神楽まつり 松明行列 炎の祭典 奉納行事

市民や市の職員が古墳時代の服装をして行う炎の
祭典や国の選定無形民俗文化財である神楽など
西都市の伝統芸能が奉納されること

課題

マンパワー不足、一過性のため観光消費に結び
つかないことであった

視察を終えて

土浦市の花火も同様で一過性である。むしろ集客力
はものすごいものがあるが周遊力には繋がりずもう
ひとつ食等でもいいから知名度の高いものがある
ば点から線に変わると観光消費へつながるこ
とっており今後も研究を惜しまず勉強して
いく

高知県足湯郡高鍋町

民間活力を活用したeスポーツとIT学習について

高鍋町ではこの度の寄付を活用して企業版ふるさと納税を活用したeスポーツクラブを始めました。

令和5年7月31日に(株)サードウェーブ(東京都)様より500万円の企業版ふるさと納税をいただき町内の蚊口地区の coworking サロシ VIVACAGCCI (ウイバカグチ) を活動場所として高鍋eスポーツクラブを開講しましたとの説明があった。高鍋eスポーツクラブは次世代を担う子どもたちに新しい活動の場と専門的な指導を提供する地域密着型の取り組みで受講生は今求められているデジタル人材に必要なITスキルとして情報通信技術(ICT)に関するスキルなど幅広い内容を学ぶ資格取得を目指すなどコミュニケーション能力を図ることで世界で活躍できる人材の発掘人材育成を目的に2023年12月から高鍋eスポーツクラブを受講生を募集しているとのことであった。

高鍋町では「まちもと」と創生推進事業」として将来につながる事業に取り組んでおり土浦市も早く形に表わすことが大切だと感じました。

宮崎県日南市・食肥「食べ歩き・町歩き事業」

目的 食肥のまちづくりを参考に、土浦市のまちづくりや活性化にどう生かすか考えるため。

食肥は城下町で、昭和49年「食肥城復元事業」を始めた。総事業費5億1800万、その内2億2000万円を全市で募金活動を集めた。「食肥城復元促進協会」を発足して行政と市民が一体となって進めた結果であった。私は土浦でも内容によっては募金活動を行うことも必要だと思う。

その他にも重要伝統的建造物群保存地区の選定（「食肥」という）がある。市議会において「文化財保存都市宣言」を行い、「町並み保存に関する要望書」を国に提出し、昭和52年に九州で最初の保存地区に選定された。

次に本町通りの振幅計画は昭和48年に現道を拡張することになり、昭和53年に「本町通り町並み研究会」が成り、城下町にふさわしい商店街を住民の協力で作った。

この3つの事業をこなして、平成20年頃は年間30万人ほどの観光客が来ていたが、食肥域内の観光が中心。本町商店街は観光客はほとんどいなかった。

平成21年「あちゅんマップ」を作成した。

本町商店街まで来てもらうために「食べ歩き引換券(5枚)有料施設(A~G)の入館券セット」を時間とかわり「あちゅんマップ」参加店も令和5年48店舗が新規オープンした。

引換券付のマップは、私たちが50%引換をしながら現在は店舗数は減少しています。商店街の活性化には貢献していると感じました。

自主事業としてスタートした「食べ歩き、のどろき」は
食天肥の城下町の観光から本町の商店街の活性化させることと
なつたが、有料入館施設費の減少などもあり、今後は入館料収入
も含めて検討するとのことでした。

土浦市も「ありみちゃんマップ」と類似の施策は行なつてきた
と思いますが、食天肥方式と比較してやる所が異なる点も
いければと思います。

竹 内 裕

宮崎県西都市

西都市墳まのりのりて

目的 古墳まのりを通して

集客を継続していく上その問題点などを
西都市のまのり等をすまていく参考とするため。

(西都市は、市の中心部より約2kmの西の大地には
 日本最大級の特別史跡西都原古墳群が
 広がり、平成30年には「日本遺産」として認定された。

(古墳群内には319基の古墳が存在して、昔から
 地元民が西都原を大切に奉っていて、古墳まのり
 の原型となる山陵祭は600年以上前と噂のEと
 言われている。

(昭和62年に市観光課、市観光協会の呼びかけ
 で青年会議所、商工青年部、青年団体連合会が
 集まり古墳まのりを創出していくことになった
 昭和62年、第一回古墳まのり開催から第37回
 を迎えた令和5年は2月間で約4万人の来場者
 があったそうです

(今後の課題点は①メンバー不足
 協力団体も減少傾向、同じメンバーが続いている
 ためマンネ化、リポーター減など改善しなければならない
 ②観光推進には活発に行っていないのと
 ③補助金頼みの運営で財源の面でも改善が必要
 だと説明を受けました。

土浦市も各種のまのりを実施する上で、①、②、③などは同じ方向にあるため共通の課題として参考にありました。

まのりを継続するための財源については協力団体や地元賛助企業、県全体の協賛金募集などをやってみるかと質問しましたが、明確な答はありませんでした。

一、

目的 eスポーツとデジタル人材活用について知ること

裕

宮崎県児湯郡高鍋町

民間活力を活用したeスポーツとIT学習について

(高鍋町は人口約2万人で『餃子』が町おこしを推進
するために様々な施策を行っている。→した

今回の視察は企業版ふるさと納税と活用し、
デジタル人材の育成を目的に『高鍋eスポーツクラブ』により
おこなわれ、町内外の中高生9人が来春2月まで
ゲームの腕を競うeスポーツやITスキルを学ぶ”との
ことでした。

会場は高鍋町地域おこし協力隊が復興している
かつての建物をコワーキングサロン VIVA CAGUCCY (ビバ・
カグチ)として改修して業務拠点として活用して
いる。このビバ・カグチにパソコン5台が設置され
中高生は専門知識を持つ講師からオンラインで全2
回の指導を受ける。受講料は無料。

クラブ発足にあたっては町はサードウェン(東京都)から
企業版ふるさと納税の寄付金500万円を活用
来春2月には4つの自治体のクラブによる交流試合も
あるとのことでした。

私は、eスポーツについても勉強不足なこともあり
初めて聞いた事業でもあります。土浦市のデジタル
人材育成には必要なことだと思いますが、現時点では
よくわからぬのが現状です。